

Asalaa maalekum!

アッサラー マーレクン

平成28年度1次隊、コミュニティ開発セネガル派遣の門田です。Kaffrine8月号のお届けです。

今月から任地カフリンに赴任しました。いよいよ活動が始まるか、と思いきや、異国で生活を立ち上げるということの大変さを存分に味わっているところです。今月号では、主に生活の立ち上げの中で感じた事と、私がどのような要請内容でセネガルにやってきたのかについて記載します。

本格的な活動にはまだ着手できていませんが、安心して寝られる場所を作ることは大切なので、ゆっくり焦らず進めていけたらいいと思います。

*Asalaa maalekum(アッサラーマーレクン)とは、現地の人の挨拶で、日本語の「こんにちは」にあたります。
Asalaa maalekumと言われたら、Maalekum salaam(マレクンサラム)と返します。

今月の活動内容

calender	
8/2	壮行会
8/8	赴任、配属先への挨拶・家探し
8/15	祝日(聖母被昇天祭)
8/18	引越し

8 月前半は、配属、家探し、住居整備などで慌ただしく過ぎていきました。後半は、午前中は配属先に顔を出し、そこで配属先がどんな組織構成になっているのか、学校運営委員会とはどういう組織なのか情報収集をし、午後は自宅で調べものや資料の翻訳をしながら住居の工事を待つ、という生活をしています。学校が始まると色々と忙しくなると思うので、パカンスが明けるまでのこの期間を、活動の準備期間として有意義に使おうと思います。

ムスリムが9割以上のこの国で、カトリックの祝祭が祝日になっているのは植民地時代の名残でしょうか。

セネガルの田舎で、生活を立ち上げる

任地カフリンにやってきました

8月8日、任地カフリン州カフリン県カフリン市にやってきました。首都ダカールから東に約250kmに位置するカフリン州は2008年に隣のカオラック州から分離した、まだ比較的新しい州です。首都から車で4時間半かかりますが、その道のりは緑が青々とした美しい景色のおかげで、意外と退屈することなく到着しました。この景色は雨季限定とのこと。カフリン市の最初の印象は、『思ったより何も無い』です。生活圏内にレストランの選択肢が2軒程しか無い(すべてセネガル料理の店)、スーパーマーケットが1軒しか無い(しかも6坪くらい)、タクシーがいない…。首都ダカールには多くのレストランがあり、ドミトリーから歩いて30秒でスーパーマーケットに行け、たくさんのタクシーが道を走っていました。語学研修で滞在したティエスも、ダカールほどではないですが、レストランもスーパーマーケットもタクシーもありました。そういった生活に慣れてしまっていたので、カフリンに着いた時には、何もないという印象を持ったのだと思います。でもレストランの代わりに朝ごはんが食べられる屋台が道端にあったり、スーパーマーケットの代わりに入り組んだ迷路のような市場があったり、タクシーの代わりにシャレットと呼ばれる荷馬車、荷ロバ車？が走っています。都会と同じクオリティの生活はできませんが、少し不便で味わい深い生活を、楽しんでみようと思います。

住居整備はインシャラー

カフリンでの最初のミッションは生活を立ち上げること、です。住居契約は先輩隊員やJICAスタッフのおかげでスムーズに進み、8月15日に入居するから、それまでにいくつかの工事を完了させておいてね、と大家さんと約束を交わしました。そして迎えた8月15日。住居の様子を見に行ってみると、お願いした工事のうちの10%程度しか完成していません…。最低限の安全を確保できる工事を先にお願いし、ほぼ毎日状況を確認し、まだたくさん問題はあったものの、なんとか8月18日強硬入居しました。電気の開通の手続きも一苦労です。何度も電力会社に通い、新居で電気のない夜を二晩過ごし、ようやく開通したのでした。

セネガルでどうしてこんなに物事の進みが遅いのかというと、その原因のひとつに”インシャラー”というフレーズがあるような気がします。「いつ窓の設置工事に来てくれるの?」「明日の午後行くよ、インシャラー!」という感じで、セネガル人がよく使うフレーズなのですが、このインシャラーが曲者で、日本語に訳すと、神の御心のままに、となります。つまり、「明日の午後行くよ、神様がそうしたければね!」というお返事なのです。もし翌日その約束が果たされなかったとしても、神様がそうしなかっただけだよ(だから僕は悪くないよ)、と言っているように聞こえます…。究極の他責だなど、いつも思うのですが、もしかしたら、奴隷にされていた時代もあり、植民地化されていた時代もあり、自然環境も厳しいこの国では、神様が決めたことだから仕方ないね、と思わないとやりきれないこともあったのかもしれません。そんなことを思うと、インシャラーと言われて怒る気にはなれないのでした。

来月の予定

calender	
9/13 頃	タバスキ(犠牲祭)

少しずつ生活できる環境も整ってきました。でもセネガルの学校は10月開始(ということにはなっているけれど、先輩たちによると、実際に始まるのはもっと後らしい)です。学校を舞台とした活動ができるのは、まだまだ先になりそうです。来月は、カフリンの学校と学校運営委員会の現状把握を中心に動きます。当たり前ですが現地の資料は全てフランス語で書かれています。1ページ読むのにも大変時間がかかりますが、フランス語の良いトレーニングにもなるので頑張ります。

そのうちやりたいこと

- ・配属先組織図作成 着手
- ・カフリン県地図づくり 着手
- ・地域の掃除
- ・学校の先生の一日/年間スケジュールの把握
- ・PTAの歴史調査
- ・仏語・ウォロフ語での活動報告書作成
- ・CGE会報誌の可能性の模索
- ・フリスビー教室
- ・村落部訪問



セネガルの国旗

セネガルの羊はモコモコしてないから、まだ山羊と羊の見分け付かない。



カフリンでよく見かける乗り物。ロバの荷馬車。荷ロバ車？



カフリンまでの道中の景色



住居の外観



お引越しは荷馬車で。

何をするためにセネガルにやってきたのか。私の要請内容について。

『学校運営委員会 (CGE) の活性化・運営能力向上』というミッション

2015年8月、青年海外協力隊の二次選考合格通知とともに要望調査票というものが手元に届きました。そこには自分がどのような要請に基づいて派遣されるのか、要請概要が記載されていました。

【要請理由・背景】

セネガル国では、学校単位で教員、保護者、地域住民らにより、教育環境の整備や円滑な学校運営を目指す学校運営委員会(以下、CGE)が組織され、主体的な問題の発見、自主的な解決を目指している。しかしながら、組織化や改善計画策定等、その運営において多くの問題を抱えている。本要請では、同配属先に3代にわたって派遣されている小学校教育IVと連携し、CGEの活性化や運営能力向上等への支援が求められている。

【予定されている活動内容】

管轄する小学校を巡回し、CGE/学校と協力しながら次のような活動を行う。なお、すでに派遣されている小学校IVやJICAプロジェクト関係者と連携の上活動することも可能。

- ①配属先のCGE担当の視学官と協力し、CGEによる学校活動計画の策定支援、実施状況のモニタリング、支援等を行う。
- ②住民や小学校のニーズに応じて識字や環境、衛生に関する学習会など、学校という場を利用した各種活動を行う。地域住民を巻き込んだ学校行事、レクリエーション活動等の提案や実施に協力する。

この要望調査票が手元に届いたとき、日本語で書いてあるにも関わらず、さっぱり頭に入ってこなくて戸惑ったのを覚えています。学校運営委員会とはどのような組織なのでしょう。

学校運営委員会とは

2002年に発令された大統領令によって、セネガルのすべての学校は、学校運営委員会を設置することが義務付けられました。

学校を運営する委員会、ということで、学校に関する諸問題を主体となって解決していく組織です。学校運営委員会は、主に保護者、地域住民、学校職員で組織されます。日本でいうPTAのようなものですが、より地域コミュニティで学校を運営しているという志向が強い点や、学校の財政的な支援が行える点 (PTAでは禁止されているようです) が特徴的です。

*学校運営委員会はフランス語でComité de Gestion d'Ecole。その頭文字をとってCGE(シェー・ジェー・ウー)と呼ばれています。



どうして学校運営委員会が設置されたのか

※以下は、本やHPから得た情報を基に解釈している部分もあるため、間違っているところもあるかもしれない点ご了承ください。

1 地域によって状況が異なるのに、学校における諸問題を国が一括して管理・改善していくのは困難だから、学校の抱える問題は各地域・学校で主体的に解決していってもらおう！と考えたから。

(参考) JICA 教育環境改善プロジェクト フェーズ2のプロジェクト概要より <http://www.jica.go.jp/project/senegal/001/outline/index.html>

『就学率は地域差が大きく、修了率は家事労働・教員の欠勤・通学距離等の児童の教育環境に大きく左右される。さらなる就学率及び修了率の改善のためには各地域・学校の状況に応じた対応策を講じる必要があるが、教育行政機関が地域・学校の実態とニーズを正確に把握し、処方箋を提示することは困難である。2002年の大統領令により、教員・保護者・地域住民からなる学校運営委員会 (CGE) を各学校に設置することが定められた。同委員会が機能することにより、各地域・学校の抱える問題が主体的に発見され、自発的に解決されることが望まれるが、適切な学校運営委員が選定されない、学校改善計画の適切な策定方法が分からない等の問題から、CGEが有効に機能するには至っていない。』

2 保護者・地域コミュニティを公式に教育開発政策の中に位置づけることで彼らの学校運営への参加を活性化し、学校運営を改善していこうと考えたから。

(参考) 西アフリカの教育を変えた日本発の技術協力 原雅裕著 ダイアモンド社 2011年 (P35,P36) より

『現在のニジェールでは、保護者や地域住民は教育開発に重要な役割を演じている。たとえば、学校のない村で学校を誘致するのは地域住民である。休みがちで熱心でない先生の交代を要求するのは保護者である。そして、教室が足りなければ仮設の教室をつくり、文房具が足りなければお金を出しあって買いそろえ、先生が困っていれば援助する。それが保護者であり、地域住民である。保護者と地域住民は、ニジェールの教育現場に不足する要素を補っている重要なアクターとなっているのである。ニジェール政府は、保護者や地域住民に、地方分権化政策の一環として学校運営に関する一部の権限を与え、教育開発政策のなかに彼らを公式に位置づけ、その役割を強化することを考えたのである。そして、その決定の背景には世界銀行の強力な後押しがあった。』

『開発途上国における中央集権的な教育制度では、意思決定に時間がかかり、現場の需要を吸い上げられず、保護者や地域住民の学校への帰属意識が生まれにくく、学校運営への住民参加が少ないなどの問題があった。世界銀行は、SBMを導入することで、現場のニーズがわかる保護者や地域住民に意思決定が移り、効率性が向上し、保護者や住民の学校への帰属意識が高まり、学校運営への参加が活発になり、学校運営が大きく改善されると考えた。』

配属先であるカプリン県教育委員会は何をしているところか

配属先のカプリン県教育委員会は、県内の幼稚園、小学校、中学校等の就学前・初等教育機関約200校の運営全般を監督しています。県内の小・中学校教師を対象とした研修や、教職員人事、学校巡回・指導、成績認定や卒業資格試験の実施、終了認定などを行っています。その業務のひとつに県内の学校の学校運営委員会のモニタリング、助言、研修実施などがあり、AdamaFAYEさんという方がこの業務を担当しています。

結局、私は何をするのか？

私は今後、AdamaFAYEさんと一緒に働くことになります。活動のステップとしては、まずはCGEがどのような組織かを調査する(資料ベース)⇒CGEの現状を調査する(実地ベース)⇒CGEの課題を整理する⇒各問題にどのように対応していくかを計画する⇒実行する⇒評価する…といった流れになると、今のところ考えています。「学校で算教を教えます。」といったシンプルな形で活動を説明できないので、私の仕事はわかりにくいですね。



ゴミの処理：燃えるゴミは家で燃やし、生ゴミは道において動物に食べてもらいます。燃えないゴミをどうすればいいかは調査中。